

情報リテラシー教育の実際

米澤 誠

東北大学附属図書館総務課情報企画係長

1. 情報リテラシー教育とは何か

「情報リテラシー」とは

狭義には「コンピュータが操作できること」

コンピュータやネットワークの基礎的な理解から、コンピュータやソフトウェアの操作、データ作成・整理、インターネットでの情報検索能力、プログラミング能力などを含む。これは「コンピュータ・リテラシー」と呼ばれることもある。

広義には「情報を活用する創造的能力のこと」

情報手段の特性の理解と目的に応じた適切な選択、情報の収集・判断・評価・発信の能力、情報および情報手段・情報技術の役割や影響に対する理解など；「情報の取り扱い」に関する広範囲な知識と能力のことをいう。

「情報リテラシー教育」とは

広義の情報リテラシー

「情報及び情報手段を主体的に選択して活用していくための個人の基礎的な資質」

臨時教育審議会第2次答申（1986年）

「@IT情報マネジメント用語事典」による

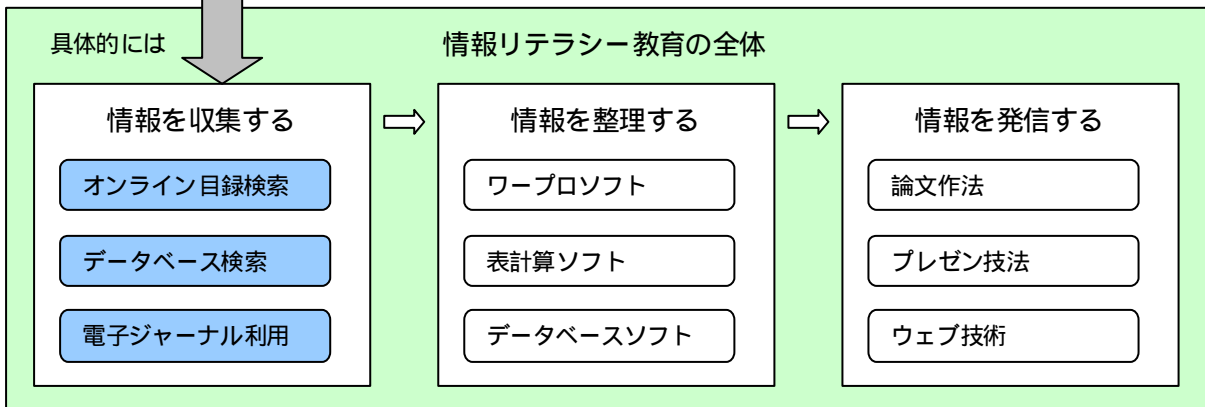
2. 大学図書館の果たすべき役割

情報全般を扱うには範囲が広すぎ、大学図書館員の守備領域を超える場面がある。

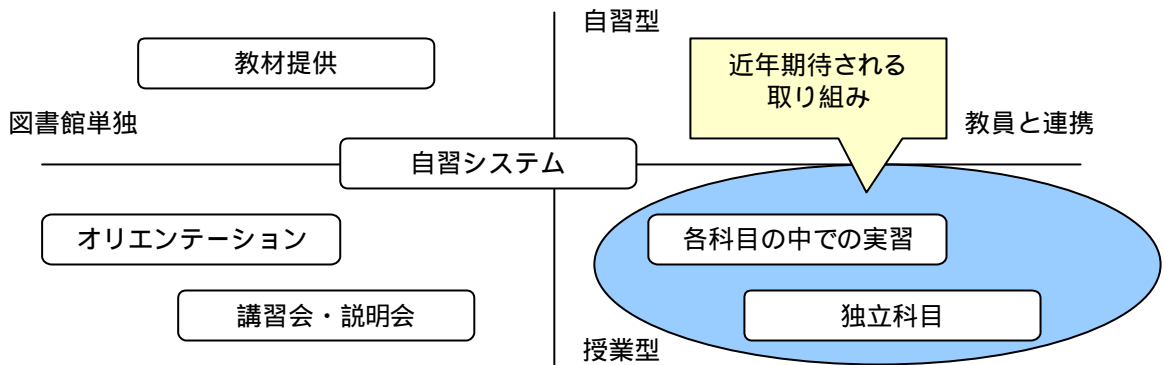
高校・大学では、教員による「情報教育」を行っており、差別化を図る必要がある。

よって大学図書館では

「図書館サービスに関する情報」の取り扱いを中心とした、情報リテラシー教育を第一に考える必要がある。



3. 大学図書館での取り組み

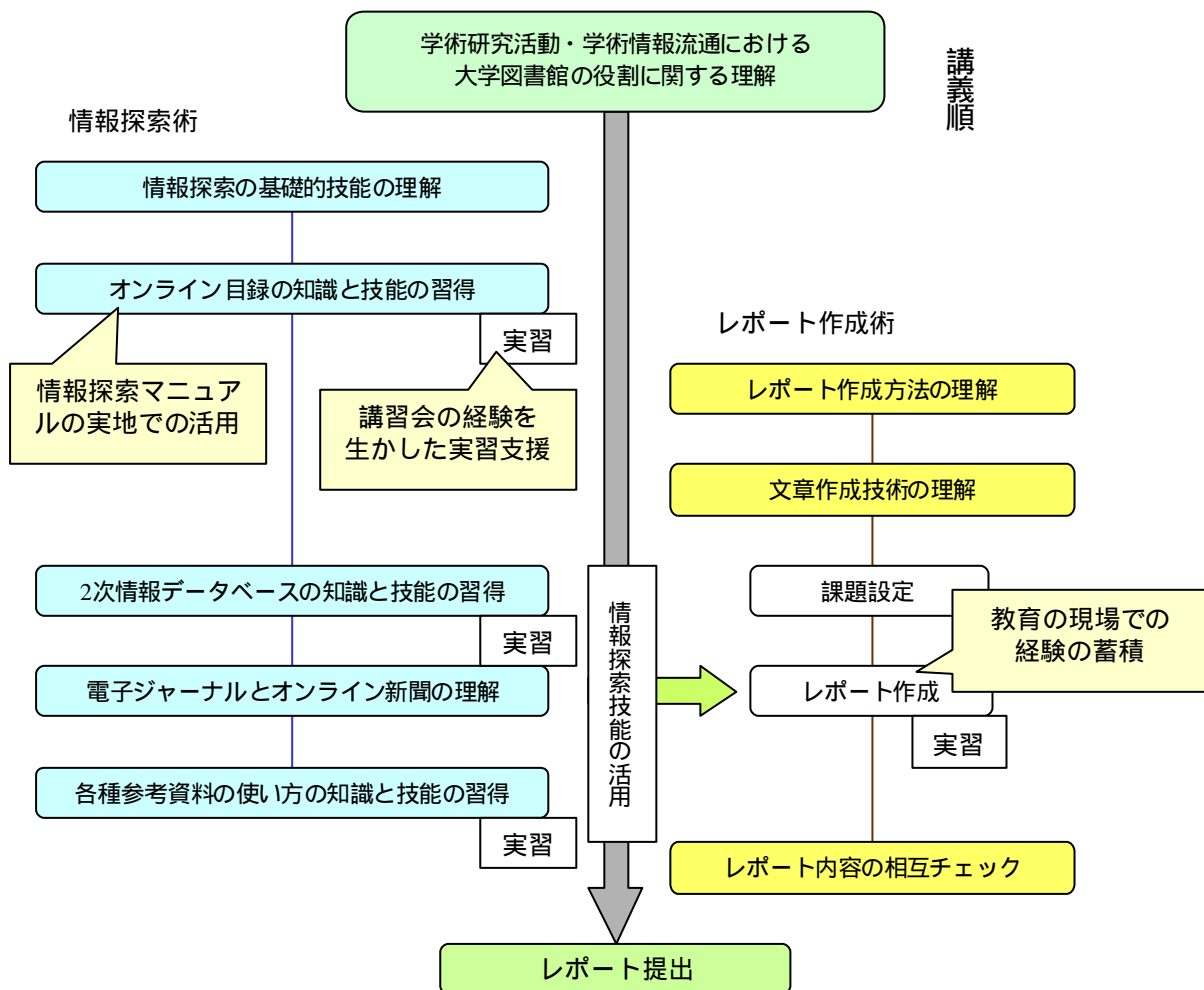


取り組み状況 橋洋平, アンケート調査「大学・高等専門学校における情報リテラシー教育」,
<http://www.geocities.co.jp/CollegeLife-Club/4479/#report>

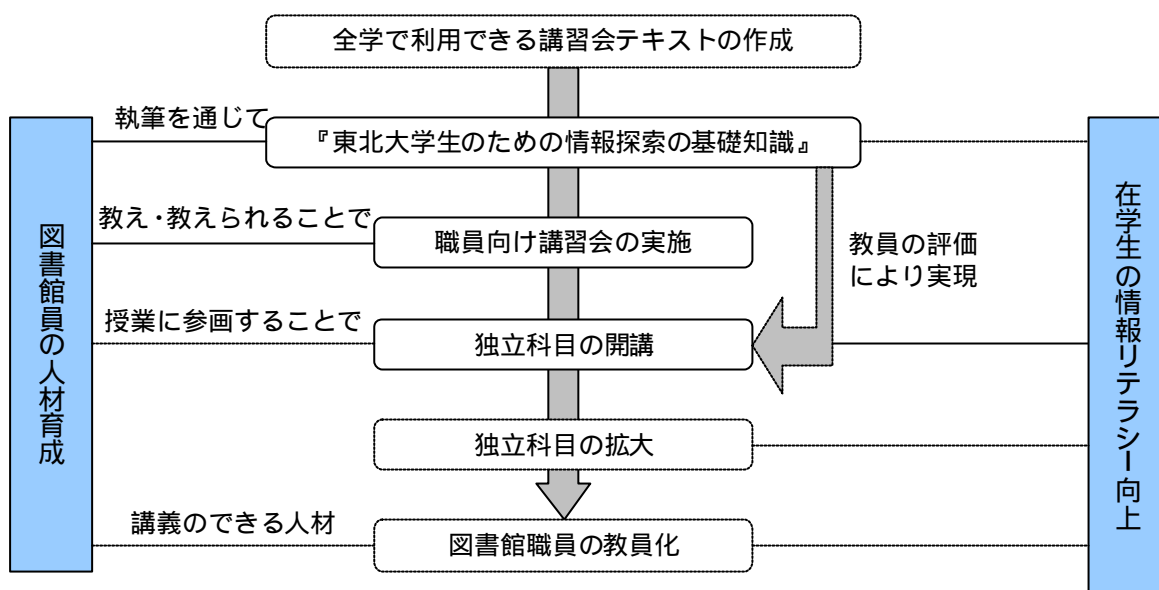
4. 東北大学での取り組み

(1) 情報探索術とレポート作成術を柱とした独立科目の開講 (平成16年度後期から)

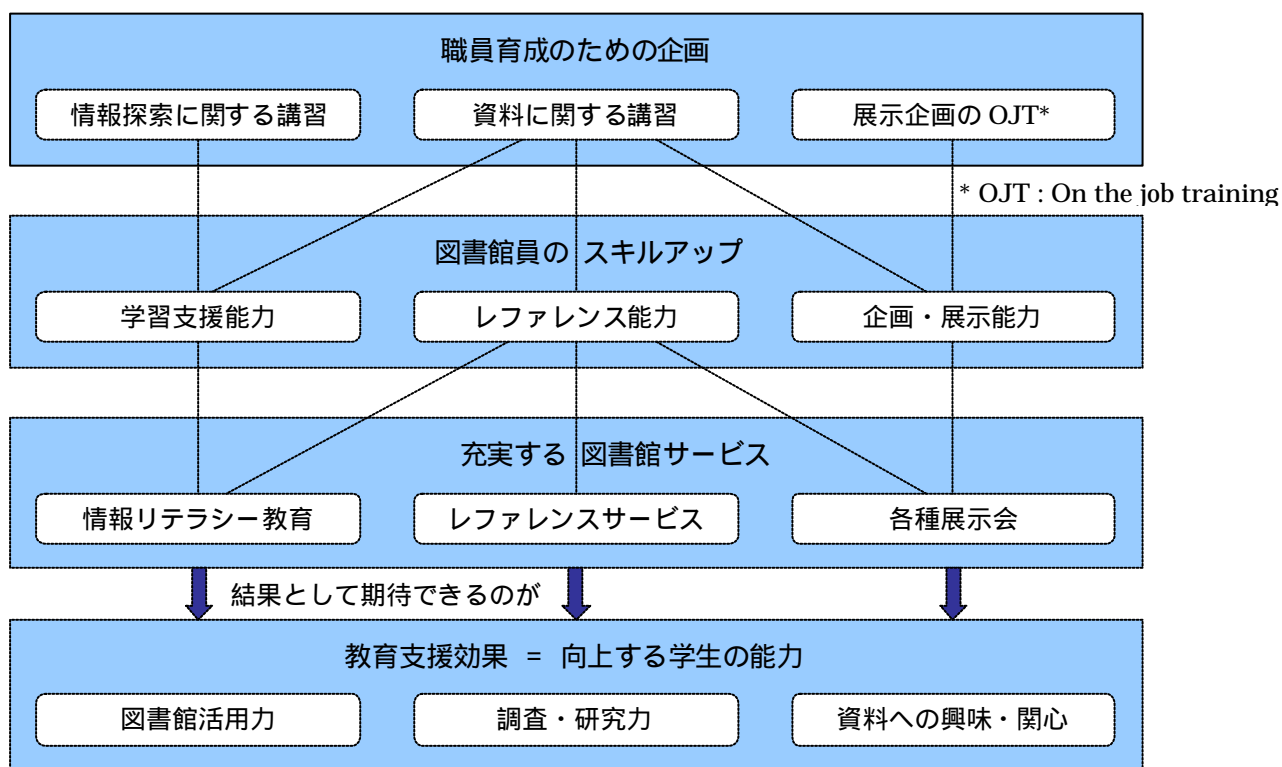
「図書館を活用した情報探索・レポート作成術」の授業構成



(2) 情報リテラシー教育が図書館員を育てる！



(3) 図書館員のスキルアップが教育支援の第一歩！



推薦図書

- (1) 日本図書館協会図書館利用教育委員会, 『図書館利用教育ハンドブック・大学図書館版』, 日本図書館協会, 2003
- (2) 井上真琴, 『図書館に訊け!』, 筑摩書房, 2004
- (3) 久恒啓一, 『図で考える人は仕事ができる』, 日本経済新聞社, 2002